

郵便  
報知新聞  
第一號

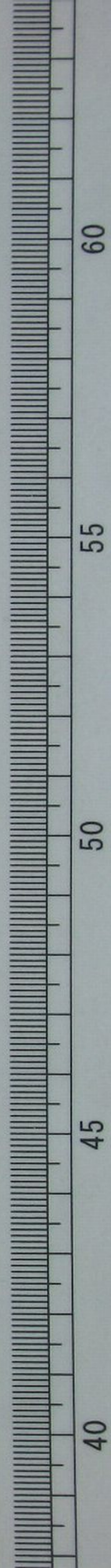
明治壬申六月

新貨三錢

驛遞察檢

東京横山町三丁目  
太田金右衛門

西垣文庫 特  
文庫 10  
7391  
1





九例

遠近の人民互に性情よく相通し事理よく相通するは新聞紙の如きは  
 なく故に西洋諸國苟も之のる名あるは地を以て之を新聞紙と爲すは  
 あるて國內國外と論を以て九百の事務と網羅し併せて奇事異聞瑣  
 話常談を採用し以て日刊一月刊一刺して傳布するは幾んど家  
 喻戶曉と爲す説くは概ありて國人甚だこれを便とせざるが今爰に郵使  
 此新聞と刊行す所も廣く遠近のるを裁せ大い内分の情を通し善  
 古今此變と知り免以て幸禪益あるんとて款を略り蓋し瓶水の氷と見  
 て天下此寒と知る處なきは此小冊子と見ざるの亦當今事情の一斑  
 と窺ふ處なり

西垣文庫



郵便報知新聞第一號

明治五年申六月

滋賀縣ヨリ當夏外國人避暑ノ為メ湖邊ニ來遊ノ

トニツキ建言節畧

當國湖水ノ儀ハ其勝景海外ニ聞へ西人最ニ賞譽罷在  
 候故ニ近年來入京ノ外國人ハ必ズ此地ヲ過キテ一覽  
 イタシ就中此節京都博覽會へ參集ノ輩陸續來遊甚々  
 風景ヲ愛シ或ハ寫真ニ取リ候偶々朝陽雖山映湖面等  
 ノトキニ當テハ世界第一ノ絶景ナリ、過賞ヲ下スモ  
 ノモ之アリ依テハ管下ノ人民モ此ニ誘動セラレ追々

坂口新報 第一編



開化ニ趣クノ勢ニ之リ既ニ去々月ヨリ大津町ノ若  
 ドモ社ヲ結ビ湖涯ニ臨ニ西洋客館ヲ造營ニ西人專ラ  
 此館ニ滞留遊憩ニ喜テ去レリ實ニ地方形勢ノ一變ト  
 奉存候然ル処近頃神戸居留外国人ノ衆説ヲ承リ候ニ  
 各国ノ居留ノ外国人ドモ夏月炎暑ノトキハ最寄ノ清  
 涼美景ノ水邊ニ暫時避暑ノタメ寄遊イタシ候処日本  
 ニ於テハ江州琵琶湖ヲ最上ノ地トナスエハ若シ當  
 年御条約ニ依リテ御國內何レノ地ニテモ外国人ノ居  
 留ヲ許サレ候ハバ則チ琵琶湖水涯ニ地所ヲ買受テ避  
 暑館ヲ相設ケタク候未ダ御条約相濟ズトモ凡ノ炎暑

何十日ノ間避暑御指許ニ相成候ハバ近傍開港所居留  
 ノ外国人暑中ノ疾苦ヲ免レ此上モナク幸ヲ得ベク云  
 ヲコトニ御坐候依テ當六月ヨリ七月マテ炎暑六十  
 日ノ間江州琵琶湖邊ニ避暑御指許仰付ラレ凡ソ一二  
 月前ヨリ神戸横濱長崎新瀉其他諸開港地ノ居留人并  
 御國內雇入ノ外国人并御詮議ニ依テハ上海香港邊マ  
 デモ御布告仰出サレ候ナウ奉願候左マハ京都博覽  
 會當四月限りニテ終會續テ一ヶ月ヲ闕テ六月ヨリ又  
 當地ニ避暑ノタメ叅集陸續往來候ハ當地人民開化  
 進出ノ基トナリ幸福万々ノミナラズ京都近傍マデモ



隨テ潤澤ト奉存候云々

○鳥取縣ヨリ報知

賚冬十月中旬伯耆國日野郡にて豊茂も米の納方  
 つき候を以て三千人許蜂起し遂に小使と拵撥り  
 びたり右同月下旬同國故大仙も領の村より移り右同様  
 米の納方より川も亦候を以て千人許大仙も一立發りた  
 り又右同月下旬同國智取郡美津村の者どもも山  
 松のふとと候り新搦したり十一月三日捕上吏と  
 も美津村の張本人と捕一たり然り処同村人共ども大  
 じ候り五十人許竹槍を携へ出で捕上吏に迫りたり又

同月中旬伯耆國會之郡濱の目め者ども相祀の衆黃を  
 突く一新搦せりさて右四ヶ所の新搦りをもいふ  
 して新定よりわづげれとも日野郡の騷擾は余ほ  
 劇しかりしに遂にその後張本人ども捕されりし杖  
 刑に処せられたりしとぞ

○本多租税中属より寄島氏へ奉出大意

吉田大藏が浦を始の一行為のりの中吳「カン」ラニス  
 に着。一兩日中「ウ」ヨルク「エ」向ひ飛金の積あり板敷  
 の如く百歩一見し如うに來る本邦にありし時は「カン」  
 「ラ」ニスにこの繁昌を以てし新に招らく我様濱とぞ







○文部省出仕市川氏書籍院ノコトニツキ建白大意  
 今ヤ我國庶政一新内ハ学校ヲ府縣ニ設ケ外ハ生徒ヲ  
 シテ欧米ニ學バシメ將ニ大ニ期スル所アラントス加  
 之迄者都下ニ博覽場ヲ開キ衆人ニ縱觀セシムル等凡  
 テ人才化育ノ方ニアラザルハナシ而シテ今日尚一層  
 文化ヲ進ムルノ舉ハ書籍院ノ設ケニ如クハナカルベ  
 シ其方ハ府内市街ニ接近セザル高爽ノ地ニ於テ一大  
 書院ヲ建テ其四周皆數層ノ架ヲ設ケ所有ノ群籍ヲ區  
 分シテ架上ニ収メ凡案ヲ列子普ク諸人ヲシテ此處ニ  
 來リ其書ヲ繙閱セシムルヲ許シ博ク考古徵今ノ資ニ

供シ或ハ著述編輯ノ便ニ充ツベシ是人ノ才ヲ増シ國  
 ノ益ヲ生スルノ根原ナリ所謂閱卷有益ノ大ナルモノ  
 ニアラズヤ云々

○比叡山安樂院ヨリ建議大意

右建議ノ趣ニテハ神道ノ教ニテ祭祀ノ節僧尼ノ參拜  
 ヲ禁ズルハ中古ノ一ナリ然ルニ今日開化ノ日ニ當リ  
 僧尼ノ三參拜ヲ禁ズルハ旧弊ノ一ナルベシ如何トナ  
 レバ海外ノ民ナルモ尚勸メテ神ニ參拜歸依セシムル  
 トキハ神威益々貴ク神德弥々著シカルベシ況ヤ僧尼  
 ハ全ク本邦ノ民ニテ尽ク神孫ナラザルハナシ神何ゾ











び調和の音聲と吹んぞと得ハ何の度福らあれ又返ん  
 余日本に於て知人ありれば余像あく其密を煩ハすと  
 然るども同案に於てハえより不因す洋ありども病  
 あれば施すづきの美ありハ必定ありと思ふと雖も減  
 又大學を我書に之を質し程終く返答有りといふは  
 とき御漢より清来ハ笑ふといは奇談ありども嘗て知  
 る人も多き海外美並の國にも斯音信を通ト得るハ一  
 又郵便の切ありと吾の執業と為し記す

報知新聞第一號終

今般郵便報知新聞刊行の旨趣遠く隔る國々其物性を互にお通せしめ且府下  
 小生する細太る實各地相知りめんを依るを稱する其法不友申善以の賞譽  
 暴徒に捕縛機械産物の新著時替紙織物米器陶器米穀茶葉其他の諸品製造  
 耕作の多寡世に風雷雨水の災難を暖氣候に速く少く多きを  
 皆夫くに筆記して聊文體虚飾を加へを時々代載て是を諸君見及ひ賣  
 弘所小送り越し給はん事代希ふ

一郵便報知新聞一冊價新貨三錢毎月五号宛出板

當時發兌号ヨリ先廿册分引受後向を一割引

同四十册分ハ一割半引

一ヶ月分引請の向ハ二割引

右之通割金お定金郵便賃代取候共每号發兌順序と逐ハ郵便にて居届可申候  
 東京横山町三丁目  
 發兌人 太田金右衛門



